

互いに理解するために

言葉も文化も違う外国人住民。「みんな同じ恵庭市民」と言っても、お互いの理解が不足している、誤解が生まれてしまうこともあります。そのため市では、市内に住む外国人住民を知り、交流ができる機会をつくるため、2年前から「多文化共生フェスタ」を開催。

昨年度は、恵庭国際交流プラザとの共催という形で、花の拠点「はなふる」で開催しました。それぞれの国の文化を紹介する

ブースには、実際に恵庭で生活している人たちも登場し、子どもから大人まで多くの来場者で賑わいました。また、日本語で会話の練習をしたい外国人のために、毎月2回程度、日本語ひろば「えにわ」を開催。練習相手は市民ボランティアで、会話はもちろん、日本の文化を伝

えるなどの交流をしています。

町内会単位でも、地域に住む外国人住民と顔の見える関係をつくろうとする動きが出てきています。市の出前講座を活用して、町内会の人に外国人住民の実態を知ってもらおう場を設けたり、地域のお祭りを開催するときに、外国人住民にも積極的に参加の呼びかけをしたりしているところも。また、30年以上にわたり地域の海外の人たちと交流を続けている「恵庭国際交流プラザ」も、恵庭市民と外国人をつなげてくれる、なくてはならない存在です。

だれもが住みよいまちに

少子高齢化の続く日本人の労働者不足を背景に外国人人口が増えていることを考えると、今後その流れは変わらないでしょう。そうであるなら、外国人に無関心でいるよりも一歩踏み出して、住んでいる人の顔の見える地域を、みんなでつくっていきませんか。

恵庭国際交流プラザ紹介&インタビュー

外国人だからと構えずに交流を！

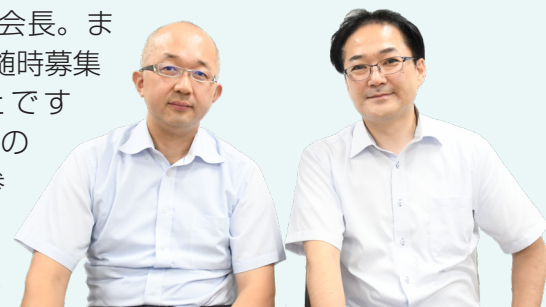
1994年に設立された恵庭国際交流プラザは、地域の国際交流と多文化共生を推進する市民団体で、現在のメンバーは24人。気軽に、楽しく、緩やかにつながりながら、海外出身の留学生や家族、働く人との交流を深めています。長期にわたる地域に根ざした活動が認められ、昨年度は、北海道国際交流・協力総合センターが外国人が暮らしやすい地域づくりなどに取り組む団体を表彰する「北海道多文化共生アワード2024」にも選ばれました。

活動を続けている中で、外国人との関わり方も次第に変化してきました。山崎秀樹副会長は「昔は『交流。でしたが、今は、長く共存することに重点を置く『多文化共生』。仲良くしましょう、から、『日本の文化はこうです』としっかり伝え、私たちも相手の文化のことを学ぶ。互いに住みよいコミュニティづくりには、それが必要だと感じています」と話し

ます。

年々増加する外国人住民に対して、どのように接したらよいのか。北田竜昌会長は「みなさん『外国人だから』と、必要以上に壁を作らず『人対人』という気持ちで気軽に接してください。そして、あいさつは、ぜひ日本語で！ 翻訳アプリなどを使うのもいいと思います」とアドバイスしてくれました。

なお、国際交流プラザでは10月に、市民対象の講演会を予定しています。「地域の外国人との交流のヒントになると思いますので、ぜひご参加ください」と北田会長。また、会員も随時募集中とのことですので、興味のある人は参加してみてください。



北田 竜昌会長

山崎 秀樹副会長

市内町内会&市担当者インタビュー

顔の見える関係をつくりたい

今年度から、恵み野西にある日本医療大学の留学生と交流しています。

まちですれ違っても、お互いあいさつもなしのは寂しいですね。地域住民の「留学生とのコミュニケーションの場があればいい」という思いと、大学の「留学生を地域の人と交流させたい」という気持ちが、タイミングよく合致したんだと思います。



既に、街路樹帯の花植えにボランティアとして参加してもらったり、町内会の親睦交流会で、ネパールの音楽や舞踊を披露してもらったりしました。夏まつりにも、多くの留学生が来てくれそうです。

今後も交流が増え、自国に帰るときに、日本でのいい思い出をたくさん持ち帰ってもらえたら、うれしいですね。

吉田 豊 恵み野西町内会副会長

より良い地域づくりを目指して

20代の10人に1人は外国人。農業や飲食料品製造、介護施設など、私たちの暮らしで欠かせない仕事を担い、生活を支えてくれています。多国籍化も進んでおり、市内には42カ国国籍の外国人がいます。外国人との接し方のポイントは、①お互いを知ること②気軽にあいさつをすること③やさしい日本語で話してみよう、です。

外国人の相談相手は、職場や同じ国籍の知り合いが多く、日本人の知り合いはほとんどいません。外国人に対して「ごみの捨て方が違う」、「公共の場所で騒いでいる」などと感じたことのある人もいると思いますが、恵庭のルールや文化の違いを教えてくれる人が周囲にいないだけなのです。ぜひ顔見知りになって、相談しやすい関係をつくり、よりよい地域づくりを目指していきましょう！



島瀬 光 企画課多文化共生担当主査

外国語が話せなくても大丈夫！ 「やさしい日本語」で交流しよう

みなさんは、「やさしい日本語」を知っていますか？

「やさしい日本語」といっても、特別な日本語があるわけではありません。

「相手に伝わりやすい、具体的な言葉を使う」、「敬語のかわりに、丁寧語（です・ます）で話す」

「短い文章で話す」、「伝えたいことをストレートに話す」。こういうことに気をつけて話をするだけで、日本語でも会話がスムーズに進みます。

特に日本語を勉強中の外国人との会話では、「やさしい日本語」で「はっきり・最後まで・短く言う」ことを意識して、話してみてください。

国際交流プラザの山崎副会長は、ほかにも気をつけたほうがいいこととして「社交辞令は外国人には伝わりませんし、はっきりいうことは失礼にあたりません。例えば、できないときは『できません』とはっきり言わないと、相手は混乱してしまいます」と話します。ポイントを押さえて、いろいろな国の人たちと、楽しく交流してみましょう！

【やさしい日本語の言い換え例】

- ・ご連絡お願いいたします → ^{れんらく}連絡してください
- ・相談窓口を開設します → ^{そうだん}相談する^{ばしょ}場所を作ります
- ・館内は飲食禁止です → ^{なか}中で^た食べたり^の飲んだりできません
- ・集合時間は12時です → 12時までに来てください

外国人住民の国籍トップ10と公用語

	国籍	人数	公用語
1	ネパール	338人	ネパール語
2	ベトナム	306人	ベトナム語
3	フィリピン	150人	英語、タガログ語ほか
4	中国	116人	中国語
5	インドネシア	93人	インドネシア語
6	韓国	57人	韓国語
7	ミャンマー	56人	ミャンマー語
8	カンボジア	19人	クメール語
9	台湾	18人	中国語
10	スリランカ	12人	シンハラ語